

委員会だより

< 7月4日(日) 12名出席 >

1. 会計報告

一般会計、建設会計など、収入・支出ともに予算進捗はほぼ予定どおり

2. 審議事項

- ①「運営基準見直し案」について
プロジェクトチームより提出の原案につき審議。委員会承認。
- ②建設会計関連の事項について
福島副委員長の調査に基づく「教会補修に関する概算費用」を元に検討。概算総費用は約400万円。資金の調達方法については、8月の臨時総会で審議していただく。
- ③バザー委員会報告関連
バザー券復活の提案を「教会建物補修関連」に含めて8月の臨時総会に提出、審議していただく。

3. 各委員、グループから

- ①委員会
 - a. 聖公会・聖クリストファー教会との合同懇談会・・・7月11日(日)午後2時、聖公会教会にて
 - b. 臨時総会開催・・・8月29日(日)ミサ後、聖堂にて
 - c. 敬老のお祝い・・・9月12日(日)ミサ、パーティー
該当者: 38名 + 山崎神父様 予算: 7万円
- ②布教委員
 - a. 祈りのリレー・・・中和田教会担当は8月。ミサ中の共同祈願で唱える(祈願文は竹内委員が作成)。
 - b. カトリック正義と平和協議会全国集会
 - c. 湘南キリスト教セミナー
⇒b、cについては、ミサ後に詳細を伝える。
 - d. 「泉区民クリスマス」・・・従来どおりで参加。9月からの聖歌隊の練習に聖堂使用を承認。
- ③要理委員
 - a. 中高生リーダー研修会参加報告(井上委員)
 - b. 夏季学校・・・7月24、25日に一泊で実施。
4. その他・・・8、9月の行事予定について
⇒行事予定については、「お知らせ」欄をご覧ください。

婦人会だより

< 7月18日(日) 18名出席 >

1. 始めの祈り 病気の会員のための祈り
(ロザリオ一連一光の神秘、病者のための祈り)
2. 委員会報告
3. バザー委員会報告
婦人会として提案した青空市用のリサイクル家庭用品は、残った場合の処分に困るということで見合わせるようになりました。
4. バザー関連事項

① 食堂メニュー決定	カレーライ	150食	300円
	玉こんにゃく	165串	100円
	紅茶とマドレーヌ	100食	100円
	おはぎ	100食	200円
- ② 委託品
お茶 しいたけ、ド・ロ様うどん、民芸品、コロッケ、お花
- ③ ご提供のお願い
・自主作品 一人2点以上(9月末まで)。なお、売値にご希望のある場合は付記してください。
・新品雑貨(9月末まで) ・紅茶マドレーヌ用の紅茶 と砂糖。
5. その他の話し合い
 - ① 臨時信徒総会の議長選出・・・阿部映子さんを推薦。
 - ② 「運営基準見直し」について先月に続いて話し合い。皆さんからのご意見は、臨時総会で会長がまとめて提出します。
 - ③ 「泉区民クリスマス」についてご意見をいただきました。もう少し時間をかけて話し合い、理解を深めていく。



- ④ 来年度の役員選出について
今年度は行事グループの活躍があり助けられています。4人では難しい面もあるので、来年各地区で何名出ていただけるか検討してみてください。
6. お知らせ
 - ① 要理夏季学校に10,000円をさしあげました。
 - ② お茶 おせんべいの申し込みを月報でお知らせいたします。次回は9月例会時です。
 - ③ 毎週木曜日午後に行なっているバザーのための仕事会は、8月はお休みにします。9月にはまたよろしくお祈りします。
【8月の例会はお休み。聖堂清掃の用具準備当番はB地区】
【次回例会は9月19日(日) 聖堂清掃の用具および例会のお茶の準備当番はC地区】

壮年会だより

< 6月20日(日) 11名出席 >

1. 新会員 鶴田 恒之氏(転入)の挨拶ならびに自己紹介
2. 委員会報告: 委員会だより参照
3. バザー:
 - ◆ 6/27 第1回バザー委員会報告(基本的に前年度並み)
 - ◆ 壮年会は、例年通り「やきとり」「やきそば」「やきいか」「飲み物」・・・仕込みは花坂さんをお願いする。
 - ◆ 「青空市」: 掲示ビラに抛出可能な品物を記入頂き、全体規模を見定めた上で具体的運営を詰める(7月一杯をメド)。
4. 教会運営基準見直しプロジェクト:
 - ◆ 前回東原氏より、考え方や詳細内容をご説明頂き、見直し内容の支持を確認したが、今回継続検討及び最終確認。
 - ◆ 異論は全く無く、壮年会総意として変更内容を了承・支持。
5. 建設・修繕関連:
 - ◆ 福島氏中心で纏めた修繕必要項目の費用見積り結果の説明。金額としては約400万円。
6. 臨時信徒総会(8/29)の確認:
 - ◆ 上記の教会運営基準見直し結果、並びに建設・修繕に関連する「バザー券復活」が提案されて主議題となる。
7. 布教関係(竹内氏):
 - ◆ 祈りのリレー: 中和田教会担当は8月(ミサ中の共同祈願で唱える方式)。
 - ◆ カトリック正義と平和協議会全国集会: 本日(7/18)のミサ後の竹内氏説明の通り。
 - ◆ 泉区民クリスマス: 既報の通り、従来通り参加する。要望があれば竹内氏へ連絡。(但し本年は開催会場が変わるため、内容が見直される予定とのこと)。
 - ◆ 「新しい形の教会」に関連し、竹内氏より「横浜教区報と6月度の壮年会で配布した『共同宣教司牧』とは何ですか? 何をしますか?』とよく読んで欲しい」旨ご要望あり。「新しい形」に向かって信徒全体が意識を高めていかねばならない課題。
 - ◆ また、この課題に対して『神父様を囲んで、お茶を飲みながら気楽に且つ率直にお話し合いが出来る場』の設定に関する要望があった。加えて水曜日に行われている勉強会を発展させるのも方策の一つである旨のご提言もあった。
8. 「黙想会」に関するご提案:
 - ◆ 壮年会として「黙想会」を行ってはどうか、という提案が出た、総論としては大いに賛成。時間制約が多いメンバーにご参加頂ける企画をいかに作るかが課題。本件は、伊藤神学生にもいろいろ知恵を出して頂き、より具体的な企画提案を作り改めて例会に提案して揉むこととした。
9. その他、自由発言
 - ◆ 教会インターネット担当者交流会(6/26; 東京大司教区主催)の参加報告(小野氏; 詳細略)。
 - ◆ 小谷氏より、敬老のお祝いの運営に関するご提言あり。



広報 なかわだ

8、9月の予定

第304号

臨時信徒総会	8月29日
委員会	9月 5日
壮年会、婦人会	9月 19日
敬老の日	9月12日
サロン	9月 12, 26日
レジオ	9月 10, 17, 24日



ムリリ日 聖母被昇天

2004年 8月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成16年8月8日



サポートするところ、それは同伴者

主任司祭 ジャック・グルニエ



最近まで、数年の間、横浜駅の近くに置かれた『神奈川県民活動サポートセンター』という所へ川崎からよく通っていました。当センターの使命は、見事に設備やスペースを整えることによって、いろいろな取り組みへ関心を持っている小グループに話し合いや作業ができる場所を提供するというのです。皆と一緒にそこにいたり、また自分の仲間と座って話し合いを行うと、不思議なことに隣のグループにおける情熱、その中から湧き出る相互の支えの力も確かに感じることが出来ます。こうした雰囲気の中で、それぞれの作業や企画作りもスムーズに進んでいく空間だと何度も感じました。

さて、『教会』は、間違いなく、神さまで自身が人々とともに働くために与えてくださった『いのち、生活、活動サポートセンター』というような場ではないかとわたしは思います。なぜなら、キリストの教会の中、「励ましあうこと」、「思いを一つにすること。」(2コリント13.11参照)、また「心を新たにして自分を変えていただくようになること」(ローマ12.2参照)など、それが時々迷いや恐れがあるといっても、みんなの強い望みや喜びであると言えるでしょう。

周りをよく見ると、神の息吹がいろいろそういったスペースを活かしてくださいます。孤独感、疎外感、不安定を破って、人に相応しい関係性、絆を養ってくれるスペースを。たとえば、『話を聞く』と小さな看板を掲げて駅の広場に出かけ、出会いのきっかけを作る青年の姿が実際あります。わたしはその青年に会いました。またあるNPOが、東京の港区役所の人権・男女共同推進係の委託で、『港区コミュニティカフェ』を運営しています。趣旨には次のように書いてあります。

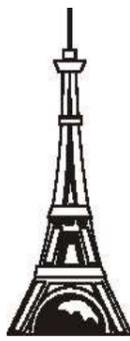
ゆるやかな時間が流れ

心からほっとできる

そういう場をめざします”

そういうわけで、我が教会はみんながキリストのうちにいるし、互いの同伴者となった『わたしの道の光』(詩篇119.105)として存在しているはずですよ。そうですよ。「あなたをおいて、だれのところに行きましょう」。





メルシー フランス!

森脇 彰子

"フランス"と言われて私がイメージしていたものは・・・、花の都パリ、ベルサイユ宮殿、モンブラン(私にとってはケーキの名前)、カンヌ映画祭、ルイ・ヴィトン・・・。おしゃれで小粋で、ちょっとお高い、自分には縁もゆかりもない国。そう思い込んでいた・・・。3年前までは。

ところが、「パリ日本人学校への転勤が決まったから。」ある日突然、主人から言われて以来、私の人生にフランスは大きく踏みこんできたのである。興味がなかったため、フランスに関する知識はほとんどなく、フランス語は「ボンジュール」しか知らない。こんな私にやはりフランスは冷たかった。

新居に着いて早々、近くのスーパー(カルフル)で買物をしようとしたが、店内が広くて欲しい物がなかなか見つからない。辞書を持参すべきだった、と反省しつつ、拙い英語で近くの店員に聞いたが、いやそうな顔をされたあげく、「パレル フォンセ、パレル フォンセ」(「フランス語を話せ、フランス語を話せ」とどなり、プイッと向うに行ってしまったのである。この後、中国人の店員が来てくれて解決したのであるが、日本の丁寧な対応に慣れていた私は、「フランス人はなんて横柄なのだろう。このレジのおばさんだって、ぶすっと怒ったような顔で、感じが悪い。これが客に対する態度か!」と非常に悪い印象を持ったのである。しかも、その帰り、周囲をキョロキョロ見回しながら、「さすがに街並みは広々してきれいなあ」などと感じ入っていた矢先、「グニャリ」とした靴底の柔らかい感触に、悪い予感がして、はっと下を見ると、なんと犬のふんが靴にべっとり! 「なによ、これは! 許せない!」思わず日本語で大声を出してしまった。恥かしいというよりも、「飼い主が当然始末すべき義務をどうして果たさないのだ!」と怒鳴りちらしたい気持ちでいっぱいだった。その後しばらくは、日本人の価値観いや、私個人の価値観かで物を見てしまう自分をなだめるのが大変であった。

だが、そのうち、フランスは優しいところもあると感じるようになった。店や建物などの出入口では、必ず前の人が後ろの人のためにドアを支えてくれるのだ。そして、「メルシー」(ありがとう)、「ドゥリアン」(どういたしまして)と、お互いに言い合ってはニコリするのである。(駅の改札口は、人が大勢いるので、お互いさまという感じで無言のやりとりになるのだが・・・)。子ども連れて郵便局の窓口の長蛇の列に並んだときは日本のようにイスもなければ整理券もない。ただひたすら並ぶのである。「アレズィー」(行きなさい)と言って、前に行かせてくれた。それも一人や二人ではなく、何人ものひとが・・・。一番前にいた初老のマダムは、子どもを見てニコリして、「セ ミニョン」(かわいね)と頬をなでてくださった。私はありがたくて、うれしくて、思わず涙があふれた。他にも、店のレジで支払い際、財布を忘れたことに気づきパニックになった私に、偶然その場に居合わせた同じアパレルマンのマダム(離婚されて、小学生の娘さんと二人暮らしの方で、エレベーターなどで一緒になると気軽に声をかけてくださるマダム)が、とっさにお金を貸して下さったりなど、私の周りのフランス人は親切な方が多かった。

知人の話しによると、カトリックの信者が人口の約8割を占めるだけあって、困っている人や弱者に、フランス人は非常に寛容らしい。ただし、日本と同じで、若い世代の教会離れは進んでいるようで、近くの教会もお年を召した方が多かった。また、神父様いくつかの教会を掛け持ちされており、来週は別の教会でミサを行なうので、ミサの時間を変更する、あるいはそこまで来てください、ということもあった。

"アンビフォン"、今の私から見たフランスのイメージである。料理教室のフランス人の先生がよく使っていた言葉で、*<だいいたい>*、*<およそ〜くらい>*という意味である。フランスの家庭料理を教えてくださいとこの先生は、几帳面な我々日本人生徒が、細かい分量や火加減を質問する度、「アンビフォン」と言ってニコリするのである。遅れて来る電車、始業時刻に始まらない銀行の窓口、売り切れた品物を何日も補充しないスーパー、予約した日時に来ない家の修理屋。物事に対するいい加減で、おおらかで、こだわらない、スケールの大きなフランスは、真面目で四角四面な日本人である私に、様々な世界があることを教えてくれた。

メルシー フランス! メルシー ボークー! ありがとうフランス! ありがとう!!



セーヌの流れ

お知らせ

転入 ようこそ 鶴田 恒之様 泉区和泉町 4482-3 電話: 045-802-0100

行事のお知らせ

- 8月8日(日)横浜教区・平和旬間行事 テーマ:「平和を!」
会場:横浜雙葉学園新館(講堂) 時間:11:00~18:00(昼食は各自持参)
・11時から・・・若い世代の体験を聴く集い
・12時30分から・・・アビールコーナー、写真展
・13時~15時30分・・・講演会、小学生対象のプログラム
・16時から・・・平和を求めミサ
- 8月15日(日)三笠教会から子どもさん達が来訪、11時からミサと共に与かり、交流会をもちます。尚当日ミサは9時、11時の2回。いずれにも来られても結構です。
- 8月29日(日)臨時総会(ミサ後、聖堂にて) ●9月12日(日)敬老のお祝い会(ミサと茶話会)

その他のお知らせ

- 8月16日(月)~28日(土) グルニエ神父様はカナダへお出かけです。
主任司祭代行・・・ピッツィ神父様(二俣川教会 045-391-6296)
22日(日)ミサ司式・・・レイモンド神父様(ケベック会)
- JOC サロン(『じゃっくおじさんカフェ』)が7月25日(日)から毎週日曜日午後1時から、当教会新集会室にて開かれます。働く青年達のよいコミュニケーションの場となりますように!



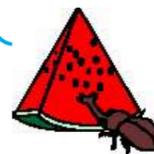
はラテン語で進められたが、パパ様の神々しいお声、また聖歌隊の歌声も素晴らしく、今もその情景が脳裏に蘇ってくるほど感動した。

3月29日(金)、30日(土)

29日は聖心会の教会で、聖金曜日のミサ。30日は聖ボナベントウラ教会で、PM3:00より復活のミサを行った後、全日程を終えた私達は帰途に向かった。

フランシスコの兄弟団においては、貧困そのものが理想であり、これによって「キリストの模倣」を实践することであった。一切を捨てることによって、一切のものが「与えられた」ものになり、一切のものと兄弟となり姉妹となる。フランシスコの「太陽の賛歌」は貧困、無所有になることによって生まれたのである。

この10日間の巡礼の旅を終え、フランシスコがいかにか純粋に、ただひたすらに神を愛したのかを、足跡を訪ねることにより、より一層実感できたように思う。このような旅に参加できた私は本当にしあわせであった。



夏季学校の思い出

小5 石井 大河



夏季学校の初めに自己紹介をしました! 知らない子の名前を聞いて「へえ〜」と思いました。その後にお祈りをしました。僕は「夏季学校が楽しく過ごせるように」と思いながらお祈りをしました。

その次はハーモニカ練習でした! 新しい曲を習いました! その曲は「あめのきさき」でした。最初のころは大変だったけど、後から、完全じゃないけどマスターできました。その後は水の勉強をしました。高野神父様が、水を汲んで「天河、この水飲んで」と言われました。そして、「この水は、何処から来たでしょう」といいました。

次は、グループに分けられました。僕のグループのメンバーは石崎裕太君と石井拓真君でした。絵を描いてから発表して終わりました。少しはずれでした。

次はお弁当! お昼のお祈りは僕が言いました。少し恥ずかしかったです。いっぱい食べました。すごく美味しかったです!

昼食の後、井上先生が「自由時間です」と言いました。「わーっ」と言いながら、外へ出ました。楽しかったです。

その後は森脇先生の科学実験です。目の錯覚とか摩擦とか言いましたが、少し分からなかったです。でも楽しかったです。

夕方近くになって、夕食の準備にとりかかりました。男子高学年はまき割りをしました。疲れました。火起こしもしました。途中から下迫君たちも来て、火起こしとかを手伝ってもらいました。バーベキューで肉とかいっぱい焼いて食べました。すごく美味しかったです。

キャッチボールをやったり遊んだりいっぱいしました。夜は、花火をやりました。楽しかったです。その後はきもだめし〜〜〜! 男子が脅かしました。楽しかったです&疲れました。次は、マリア様の前でお祈りでした。終わったら寝る用意! まず、お風呂に入りました。UNOもやりました。夜更かしました。

次の日、早朝6時に起きました。6時30分からラジオ体操でした。あくびをしながらラジオ体操をやりました。歯を磨いて朝ごはんを食べて、それからすこし遊びました。ミサが始まりました。終わってからみんなで写真を撮りました。伊藤神学生は、名古屋に帰るため、ミサが終わったら急いで教会を出ました。夏季学校は、とても楽しく、いっぱい思い出が作れました。来年もすごく楽しみです! !



写真は中和田教会ホームページより
(<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>)



アシジの聖フランシスコ大聖堂

めではなく、キリストの教会を建て直すという意味があったのだということを知る事となる。その後彼は、金銭を持たず、外套も着ず、靴も履かず、無一物になって世界を巡り、愛を説き、平和を語り始める。「ポルチウンクラ」は、フランシスコの信仰の原点になった教会である。後にここが彼等の活躍の基地になり、またここはフランシスコの終焉の地でもあった。このフランシスコと一番縁の深い「ポルチウンクラ」聖堂で、我々だけのミサをあげることができた時には本当に感動した。神父様の話では、「ポルチウンクラ」聖堂でのミサはなかなか許可してもらえないそうで、神父様の熱心な頼み込みで許可してもらったのだ。小さな聖堂は我々だけでほぼ一杯になった。日本の聖歌を歌い、日本語でのミサであったが、多くの外国人が我々のミサに参列してくれた。

再びフランシスコの話に戻るが、フランシスコ会は急速に大きくなり、数千人単位の規模になったため、会員を収容するための修道院

が必要になり、今までのように“無所有”を貫き通すことが困難となってしまい、フランシスコの理想通りの姿では存在できなくなっていた。

1,221年に彼自身の第2会則の案を提唱したが、フランシスコの提唱する会則は、多くの現実主義者の会員たちの意見とは妥協する余地がなく、フランシスコは思い悩み、深く傷ついたのだ。やがて1223年フランシスコは彼の創立した修道会の総長の任を退き、祈りに専念するようになる。人里離れた森の中で、キリストの十字架を黙想していたその時、フランシスコの心に神が静かに語りかける。「あわれな小さき者よ。おまえは私が本当の牧者であることを忘れている。単純なおまえに私の群れを牧するようにと選んだのは、おまえにその資格があるからではなく、私の恵みがそうさせたのだと皆に知らせるためなのだ。招いたのは私だ。養うのも私だ。私は主であり、羊飼いである。」

フランシスコは、まだ自分の理想にとらわれているエゴが自分の中に潜んでいたことに気付いたのである。そして、彼は「現実こそが神の場であることを悟り、今この時に生きることを大切にしたい」と思うようになる。現実を有りのままに見つめ、それを有りのまま受け容れようとする心、それは深い現実肯定の悟りだった。

1224年、フランシスコは数名の兄弟とアシジから60キロほど離れたラ・ベルナ山に向う。そこはアペニン山脈の峰々に続く険しい岩山で、人里離れた深い山の中にある。ここでフランシスコは聖母被昇天の大祝日から聖ミカエルの祝日(8月15日～9月29日)まで40日間の大齋に入るが、9月14日未明、彼は十字架のキリストの聖痕を受けたのである。

我々は、その聖痕を受けた場所を訪れた。フランシスコがいかに神との一致を願い、また神に近付いたかを黙想した後、次の目的地グッピオを目指した。ここはフランシスコが狼に説教をした所である。町の人々に危害を加えていた狼に、フランシスコが優しく説教をし、狼と人々とを和解させたところである。今日はハードなスケジュールだったため、グッピオに着いた時、空には満月が輝いていた。ここから今日の宿アシジに戻った。

3月27日(水)

今日はアシジに別れを告げ、リエティに向かった。最初に訪れたのはグレッチオである。急な斜面に張り付くように修道院が建っている。ここはフランシスコが1223年のクリスマス、初めてキリスト誕生の馬小屋を飾って、村人と共に祝ったところである。

フランシスコは「主が私達の救いのために幼いときから耐え忍ばれた難儀や不便を、できるかぎりそのまま思い出させることができるようにして主のご降誕を祝いたい」と思い、洞穴の中の突き出た岩の上に馬小屋と、祭壇の奥には聖母マリアが幼子キリストに乳を飲ませている壁画を飾った。これがその後世界中に広がり、ご降誕を祝うようになった始まりである。

ここには世界中のご降誕を祝う馬小屋が飾られている。その一角に日本人形で飾ったものもあった。

グレッチオから10キロほどのところに、フォンテ・コロンボがある。ここにもフランシスコがよく祈った洞窟がたくさん残っている。ここは兄弟会の会則を前述のとおり悩みながら起草したところである。また、晩年、眼病の手術を2度にわたり受けたところである。

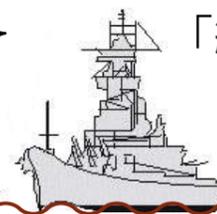


システィーナ礼拝堂のミケランジェロの天地創造(天井画部分)と最後の審判(正面祭壇の上部分)

3月28日(木)

今日は聖木曜日である。ローマ到着後、ヴァチカン美術館を見学し、システィーナ礼拝堂ではかの有名なミケランジェロの天井画を見た。

パプ様の司式による聖木曜日のごミサにあずかるため、私達は聖ペトロ大聖堂に向かった。早めに入場したこともあり、前から5～6列目の所に座ることができた。大勢の司祭が入場した後、パプ様が車で入場された。パプ様を見ようと皆総立ちになったため、やっとの事でお顔を拝見することができた。ミサ



「終戦記念日を迎えて」 思い出の記より 試運転

清水 聖

「標柱点入り方用意 - 用意 - 良」

首から掛けた「ストップウォッチ」を押す。13米特別上陸用舟艇の試運転である。コースは「横浜港内」外防と内防の間、艇は外防に沿って走り、内防にある赤白のポール上の三角と、陸岸建屋上にある赤白の三角の標識と重なり合った時が良しの合図である。戦局はいよいよ厳しく、港内にあまり船影を見かけない。たまたま中立国の貨物船の停泊しているのを見かけます。小型漁船が焼玉エンジンの音をたてドーナツ状の煙を吐いて忙しそうに走っている。

私は当時鶴見区大黒町の海軍指定工場〇〇造船(株)の造船課設計に勤務していた。そもそも13米特別上陸用舟艇は鋼板製(板厚3.2mm)全長13米、巾2.5米(記憶)、深さ1.5米(記憶)、エンジン60馬力、速力8ノット、小型自動車または小型戦車を乗せ、兵員10名位の搭載能力があり、船首は二双(双胴船のかんじ)になっており、砂浜に乗り上げた際横転しないようになっている。船首部の扉は手動であるが、現在のフェリーボートの様に開くようになっている。月産7隻から8隻位と記憶します。先輩達が次々と徴兵・召集により職場を離れて行き、新米の私達に大役が廻ってきたのです。あさから緊張の一日が始まりました。前日課長より先輩、私と同僚3名にてチームを組み、試運転係を命じられました。朝一番測候所に気象状況の確認、用意するものノットテーブル(速度計算早見表)、ストップウォッチ3個、羽子板(成績を書き記し乗船監督官に案内する黒板)。監督官は日本鋼管(株)鶴見造船所の一隅にある海軍監督官事務所より出張して来ます。彼等は横須賀海軍工廠「エキスパート」の人達です。左腕に巾2厘程の黄色のラシャの腕章をしています。艇内には、既にバラスト(搭載重量に合わせた立方体のコンクリート)が積み置きされ、お茶の用意、椅子も並べられ、準備完了。監督官も乗船、いよいよ試運転海上へ。エンジンの音はリズムカルに響いています。快晴だが波が高い。船首は波をかぶっている。出航前の本日の風速、風向、気温、海水温度をメモしておく。ストップウォッチを手に緊張の連続。艇がゆれる。マイルポストの合わせが難しくなる。船体構造状、ピッチング(縦揺れ)が多い。乗船者は無言、先輩と目話をする。

「標柱点出方用意 - 用意 - 良」

ストップウォッチを押す。ノットテーブルを開く。所要時間と照合、ノットが算出される。羽子板に8.25ノットとチョークで書く。まず監督官に見せ、逐次乗船員に提示。合格。全員の顔に安堵の色が見える。8ノット以下は不合格となる。続いて後進試験。最小の輪をえがく。白い波の泡、投入された木片を掻き混ぜ、くるくる走る。約20分位と思う。これは公式記録無し。監督官より「後進終了」の声。これで試運転完了。艇を防波堤に横付け、エンジン停止、監督官を囲んで一服。戦局の話、世間話とお茶を飲み、談笑している。私達新米はそっと話の輪から抜け、防波堤の上を散策したのを思い出します。帰社してホットする間もなく納入準備に入る。部門部門の動きが始まる。私達設計は完成図書の揃え、船体構造図から運転試験成績表等A4サイズで高さ15厘位の書類になる。艇のタッチアップ(灰色とかネズミ色)、予備品箱、船具一式を艇に積み込みシートをかける。横須賀海軍工廠に納入されます。

私達が造った舟艇はどうなったのでしょうか。戦争は終わった。この艇で戦い死んだ人もいるだろう。あの暑い日向上の守衛所の前に整列、「玉音放送」天皇の声を初めて聞き涙が止めどなく流れました。今、目を閉じると色々なことがもつとあったのでは。私達の青春の日々が懐かしく思います。この夏偶然にも試運転と一緒にストップウォッチを押した友の暑中見舞の中に京都のある博物館に13米特別上陸用舟艇が展示されてあったと。友の心の中にもやはり、上陸用舟艇があったのでしょうか。

平成16年6月3日

ミサ当番表 (2004年8、9、10月)

月/日	主日	朗読・奉納	共同祈願	侍者	オルガ	月/日	主日	朗読・奉納	共同祈願	侍者	オルガ
8/1	年間第十八主日	宮崎・江尻	宮崎	武田	保科	9/19	年間第二十五主日	山田・阿部(寿)	石井(悠)		岩 瀨
8/8	年間第十九主日	青年会・小山	青年会	石井(大)	岩 瀨	9/26	年間第二十六主日	石井・上野(明)	石 井		森 田
8/15	聖母の被昇天	森田・石井(洋)	望 月	石井(拓)・石井(繁)	森 田	10/3	年間第二十七主日	石井(彰)・鈴木	石井(彰)		保 科
8/22	年間第二十一主日	森脇・岩崎	森 脇	石 崎	保 科	10/10	年間第二十八主日	青年会	青年会		岩 瀨
8/29	年間第二十二主日	下村・花坂(昌)	小野(和)	下 迫(瑞)	岩 瀨	10/17	年間第二十九主日	石井(伸)・丸太	岩崎(好)		森 田
9/5	年間第二十三主日	山本・阿部(映)	山 本	森脇(る)・美底(ち)	森 田	10/24	年間第三十主日	井上・松田	井 上		保 科
9/12	年間第二十四主日	青年会	青年会	石井(ま)・美底(か)	保 科	10/31	年間第三十一主日	上野・小野(和)	阿部(映)		岩 瀨

聖フランシスコの足跡を訪ねて

山田 孝信

03年7、10月号に前半部分を掲載させて頂きましたが、その後間が空いてしまいましたので、改めて全体を掲載させて頂きます。御投稿頂いてから掲載完了まで時間がたっていましたことをお詫び致します。(編集委員)



このツアーに参加したのは昨年の3月22日～31日だったので、それからもう早1年になる。この時はちょうど聖週間と重なっていたこともあり、とても意義深い旅となった。このツアーは福田神父様が団長で、神父様の知人、友人を中心に添乗員を含め19名の旅となった。私は福田神父様とは高校時代の同級生で、私が教会に行くようになったのも、高校時代に福田神父様に誘われたからだった。彼は高校2年の時に神学校に行くために退校し司祭の道に進んだのだが、現在は瀬田にある聖アントニオ神学校の教授を務めている。

旅のコースはミラノを出発し、ローマまでの全行程を同じバスで周り、「聖フランシスコの足跡」を辿り巡礼する10日間の旅である。私にとって巡礼の旅は今回が初めてであり、期待に胸をふくらませ参加したのだった。

3月23日 (土)

ミラノでは、サンタ・マリア・デッレ・グラッツィエ教会でレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」を見ることができた。この有名な絵は教会の食堂にあり、湿気が高いため相当傷んでいたものを修復し、今では見事な色彩が蘇っていた。現在は入場制限を行い厳重に管理されている。

次にドゥオモ大聖堂を訪れた。天を突くばかりの135本の尖塔が真に壮観だった。内部は十字型になっており、ステンドグラスが美しく幻想的で、ここの地下小聖堂で我々だけのミサをあげた。

次はパドアの聖アントニオ大聖堂を訪れた。聖アントニオは聖フランシスコの弟子と共に苦労して宣教を行った一人である。ここには聖アントニオの舌が今も腐らずに保存されている。遺体全体が腐敗していない聖人は沢山いるが、舌だけというのは聖アントニオだけで、聖人がいかに神のことを良く述べ伝えたかを示している。

今日の宿は水の都ヴェネツィアである。水上タクシーに乗り換え、サンモーゼ教会の横にあるホテルに泊まった。



サンタ・マリア・デッレ・グラッツィエ教会 (ミラノ)

3月24日 (日)

朝8時、宿の前にあるサンモーゼ教会で枝の主日のミサを行った。小さい教会だが内部は彫刻、絵画とも素晴らしい。それから聖マルコ大聖堂に行った。サンモーゼ教会から10分ほど歩くと、広場の奥に大きなクーポラが立ち並ぶ大聖堂が姿を現した。ここはペトロの弟子で福音史家である聖マルコの墓がある教会である。9世紀から市民が数世紀にわたり築き上げた建物で芸術的にも素晴らしいものがある。

バスに乗り換え、フィレンツェに向かった。街に入るとまず高さ94mの鐘楼をもつヴェッキオ宮殿が目に入ってきた。ここはフィレンツェの中心街、宮殿前のシニョーリア広場にはダビデ像のレプリカ立っている。その横にウフィッツィ美術館がある。ここにはメディチ家が収集したコレクションが展示され、ボッティチェリの「ヴィーナスの誕生」、「春」やレオナルド・ダ・ヴィンチの「受胎告知」、ミケランジェロの「聖家族」等、素晴らしい世界の名画が数多くある。



レオナルド・ダ・ビンチの最後の晩餐

3月25日 (月)

この日は小高い丘の上にあるミケランジェロ広場に向った。ここからは大きなクーポラ(大円蓋)をもつ美しいドゥオモ「花の聖母大聖堂」とジョットの鐘楼などフィレンツェの町を一望することができた。左側にはヴェッキオ橋、ヴェッキオ宮、右側にはサンタ・クロチェ教会が見えた。この丘から坂を下りサンタ・クロチェ教会を訪れた。ここはフランシスコ会の教会で、ミケランジェロや、ガリレオ・ガリレイ等の墓があり荘厳な雰囲気が漂っていた。

それから私達はフィレンツェを後にして、今回の旅のメインであるアッシジへ向かった。

バスの窓から、遙か彼方にスバシオ山の中腹に張り付くようなアッシジの街が見えてきた。だんだん近付くにつれ、左側にある聖フランシスコ大聖堂が大きく見えてきた。最初に訪れたのはサン・ダミアーノ教会である。この教会とフランシスコとの関わりについて少し紹介したい。

1182年、フランシスコは裕福な織物商の子としてここアッシジに生まれ、何不自由ない恵まれた日々を過ごしていたが、大変な遊び好きで、湯水のように金を浪費し、友人達には毎晩のように振舞っていたようだ。やがて騎士道に憧れ18歳の時、アッシジとペルージャとの戦争に参加し、敗れて捕虜となる。父の保釈金でやっとのことでアッシジに帰還することができたが、その後再度皇帝軍と戦闘状態にあった教皇軍に参加した。彼はスポレートに着いた夜、夢の中で「フランシスコよ、お前はどこに行こうとしているのか、お前は主人としもべとどちらに仕えたいのか。」という声を聞く。帰郷したフランシスコは、騎士になる夢を捨て、神と共に生きる道を選ぶことになる。



フィレンツェの街、ミケランジェロ広場よりの眺め。「花の聖母大聖堂」、「ジョットの鐘楼」が見える。

そんなある日、フランシスコはサン・ダミアーノ教会の十字架から「崩れようとしている私の家を建て直さない」という声を聞く。彼はその声を純粋に理解し、聖堂の修復を始めたのだった。このサン・ダミアーノ教会は神の声を聞いた場所であり、また最初に修復した教会である。またフランシスコの弟子の聖クララが終生の住まいとして使ったところでもある。後に小さき兄弟会の修道院となったが、今も祈りの場としてふさわしい質素な雰囲気が漂っている。

次に聖クララ大聖堂を訪れた。イタリアンゴシックの堂々とした建築で、アッシジの裏山で採掘された薄いピンクの大理石で建造され、正面に大きなバラ窓をもつ美しい教会である。祭壇にはフランシスコに語りかけた「サン・ダミアーノの十字架板絵」が掲げられている。地下聖堂には聖クララの遺体が今も腐敗せずに安らかに眠っている。

今日の最後は聖フランシスコ大聖堂である。上下二層の大聖堂は、フランシスコの死の2年後、1228年に聖人にあげられた直後に聖堂の建築が始まり、下部聖堂は1228年～1230年、上部聖堂は1230年～1253年にかけて建てられた。

下部聖堂には、聖書を題材としたジョットー、チマブエ、ピエトロ・ロレンツェティ等の画家による傑作がずらりと並んでいる。ここから地下に降りたところに地下聖堂がある。ここには聖フランシスコの墓がある。

上部聖堂の左右の壁にはジョットーとその弟子達による「聖フランシスコの生涯」の二十八の場面が描かれており、「父に持物のすべてを返すフランシスコ」「小鳥への説教」「ラ・ベルナ山で聖痕を受ける」等その生涯が偲ばれる。

3月26日 (火)

今朝は早起きし1人アッシジの町を散歩した。5時に宿を出発したのだが、まだ薄暗く街灯が灯っていた。町はスバシオ山の中腹にあり、町の周りが城壁で囲まれている小さな町である。建物はスバシオ山から採れた淡いピンクの石材で造られている。その淡いピンクの色彩は、まさにアッシジの暖かいイメージにぴったりである。現在も町の条令で「アッシジのピンク・ストーン」の使用が定められており、それ故この町は中世そのままの落ち着いた雰囲気を保ち続けている。私もまるで中世にタイムスリップしたような錯覚に襲われた。

道は石畳の狭い坂道が続く。迷わないように目印を確認しながら進み、30分ほどでミネルヴァ神殿に辿り着いた。ここは紀元前1世紀頃の建築で、今も教会として使われているそうである。だんだん夜も明けてきて周りが見えてきた。小高い丘から眼下に広がる美しいウンブリアの平原の夜明けを眺めながら、聖フランシスコのことを思った。1時間ほど歩いて宿に帰ったのだが、自分の足で歩いてみることによってアッシジの町がますます身近に感じられたように思う。

この日最初に訪れたのは、リポ・トルト教会で、この教会の中にフランシスコが、最初の兄弟たち11人と初めて住んだ小さな小屋が保存されている。ここで修道会創立の構想が生まれ、1209年、最初の会則が記された記念すべき場所である。

次にサンタ・マリア・デッリ・アンジェリ大聖堂を訪れた。この聖堂の中にはフランシスコと最も関わりが深い「ポルチウクラ」と呼ばれる小さな聖堂がある。この「ポルチウクラ」聖堂もフランシスコが神の声を聞き修復した教会の1つである。フランシスコが修復した「ポルチウクラ」の聖堂のミサの中で、マタイ福音書の「キリストの弟子となるためには、何物も持たず、回心を述べ伝え、ただ神のみ信頼して生きなければならない」という教えにふれ、今まで自分の求めていた道を見出し、サン・ダミアーノで聞いた声も、聖堂を修復するた



アッシジのサンタ・マリア・デッリ・アンジェリ大聖堂。この中にポルチウクラ小聖堂がある